

積善

題字 第241世天台座主 玄深師(惠亮院蔵)

餘慶寺だより

編集・発行 上寺山餘慶寺

〒701-4232 岡山県瀬戸内市邑久町北島 1187

納経所 TEL 086-942-0186 FAX 086-942-0187

惠亮院 TEL/FAX 086-942-3788

本乗院 TEL 086-942-2791 FAX 086-239-5823

吉祥院 TEL/FAX 086-942-3789

定光院 TEL 086-942-2356 FAX 086-944-1490

明王院 TEL 086-943-1030 FAX 086-943-1069

圓乗院 TEL 086-942-2356

ホームページアドレス <https://yokeiji.or.jp/>

一口法話

吉祥院

コロナ後の世の中

五月に新型コロナウイルスがいわゆる五類に分類されるようになって最初の夏となりました。マスクの着用は、病院や高齢者の施設などでは着用するよう呼びかけられるとはいえ、原則として個人の判断にまかされています。リモートワークやオンライン会議が多くおこなわれていましたが、現在では様々な場面において、対面してお互いの顔を見ながら会話をする機会が増えてきています。様々なイベント、夏祭り、旅行。多くの行事が再開されました。

以前テレビで見た、ある調査結果によると、リモートによる会議よりも、対面での会議のほうが、共感する度合いが大きくなることでした。テレビでもパソコンの画面に参加者の顔がうつって離れた場所の人と会議している様子が流れていますが、やはり直接その場にいたほうが、互いの様子、ちょっとしたしぐさ、その場の雰囲気から感じられるもの、空気感というものがあって共感度もあがるということなのでしょう。

また、対面していたとしてもマスクをしていると、顔の上半分しか見ることが出来ず、表情、感情がよくわかりません。コロナ前からの知人ならまだ良いのですが、この三年間に知り合った方は、マスクをしていない顔を知らないこともあり得ます。最近になって、初めて顔を認識したということもありました。

コロナ禍の約三年間、じぶんは孤独だと思い、世間から切り離されてしまったと感じた人も多いと思います。また最近の悲惨な事件の報道をみると、他人の気持ちを感じられず、すべて自分の世界の中だけで完結していると思っているのではないかと気がしてしまいます。

しかし、人は、ひとりでは生きていくことはできません。生きることも死ぬことも、必ず誰かの手を必要とします。コロナ禍ではより一層強く感じられたのではないのでしょうか。人とのつながりを大切にすることが、次に訪れる困難に立ち向かう手助けとなることでしょうか。



餘慶寺からのお知らせ

薬師縁日 (於 薬師堂)

毎月8日 午前10時～(8月はありません)
護摩祈禱をしています。ご祈禱のお申し込みは随時納経所で受け付けています。

観音縁日 (於 本堂)

毎月18日 午前8時～
みんなで観音経をあげます。お経本は本堂にありますので、お気軽にお詣りください。

餘慶寺
HPアドレス
<https://yokeiji.or.jp/>



餘慶寺見どころ

惠亮院

上寺山今昔



私のお慕いする三人の賢者の話。まず一人目。「昔の上寺山は痩せ地じゃったから松がよう育った。炊事や風呂、生活のために木を切り、枯れ枝やマツゴ(枯れ松葉)掻きして残らず持って帰った」と。次に二人目。「昔は池田の殿様がお寺の座敷で肘枕して兎島干拓地を眺めておられるほど見通しがよかつたそうじゃ」と。そうだ、本来上寺山は見通しのきく山なんだ。昭和二十年以降、ガスや石油が燃料として使われ森は次第に荒れてしまった。松枯れの後ニセアカシアを植樹して約七十年、ヒノキを植樹して約四十年。時は流れる。平成十五年の「絆の森整備事業」から約二十年。間伐はしているが今でも木は伸び続けている。このままでいくと、うっそうとした森が通信障害となり、害獣の生息地ともなる。そして賢者三人目。「近い未来には百年木ばかりの森になって、手に負えんようになるのが心配でならん」と。

池田の殿様が好んだ見晴らし。上寺山の原風景として何とか形をとどめたいものだが。



射越地区より上寺山を望む (昭和50年代)

三重塔

よけいじ寺子屋だより

会場：餘慶寺会館(十四時)

寺子屋写真館



今後の予定

☆「寺宝展特別講演」 十月九日(月祝) ※詳しくは餘慶寺HPをご覧ください。

☆「和讃で学ぶ最澄さん」 十月二十二日(日) 講師 定光院住職 西野 祐聖師

☆「楽しく年賀状づくり」 十一月二十五日(土) 講師 日本画家・岡山日展会員 神戸淑子先生

☆「観音経から気づくこと」 十一月十二日(日) 講師 惠亮院住職 土井内 祐真師

☆「初心者への仏教講座①」 十二月十七日(日) 講師 圓乗院住職 西野 祐誠師

※どなたでも聴講できます。お誘い合わせのうえ、ご参加ください。

※新型コロナウイルスの感染状況により日程が変更になる場合がございます。詳しくはHPをご覧ください。



編集後記

暑い日がまだまだ続いていますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。積善編集の定光院祐聖です。

八月は棚経のお参りやお盆と仏教行事が多く子どもの頃は朝起きるとすでに父はお寺におらず、母も大忙しで動いていました。

今では僕も大忙しに動く側になっているのですが、ふと父母の働く後ろ姿を眺めると、まだまだ追いつけないなと感じました。

合掌

奉納書道展、締め切り迫る！ 各院または納経所へお届けください。

古い塔婆のお焚き上げや、古い盆提灯の供養もしていますので餘慶寺本堂へお持ちください。

餘慶寺

水まつりのご報告

八月二十六日(土) 十八時より、餘慶寺本堂・境内において水まつり(施餓鬼会・万灯会)を厳修いたしました。

施餓鬼会とは、阿難が釈尊に教えを請い、餓鬼の予言により残り三日の命であった寿命を延ばすことができた説話にもとづく仏教行事で、餓鬼だけでなく先祖代々の供養を行い、同時にみなさん自身の福徳延寿をお祈りさせていただきました。要です。

また万灯会では、奉納していただきました万灯会灯籠に灯りを燈し、ご先祖様の菩提をお祈りいたしました。

新型コロナウイルスもまだまだ油断はできませんが、段々と落ち着いてきており、皆さまの参拝の機会も増えてきておりますので、餘慶寺としてもより一層皆様に餘慶寺で良い夏の一夜を過ごしてもらいたく、今年から新たに千手観音様の仏絵が入った万灯会灯籠を用意し、境内に燈させていただきました。

毎年恒例になっている奉納演奏では、出屋バンド様と佐藤アキラ様による奉納演奏が行われ、聞いたことのある人気の曲や少し懐かしい曲の演奏が行われ聴きに來られた方も一緒に手拍子や掛け声をし、境内が盛大に活気良く盛り上がりました。

他にも境内では寺庭婦人によるひもくじやスーパードール、お菓子すくい等の縁日広場や、地元コミュニティによるかき氷等の軽食の出店等もありご家族、お子様連れの方がたくさんこられました。

皆様が餘慶寺に來られて、ご先祖様への供養の為に手を合わせる姿を一緒に來ている子ども達や次の世代が見て、同じようにそっと手を合わす、そこには目には見えないかもしれないがとても大切な「想い」が次の世代に継承された証です。

餘慶寺の水まつりの施餓鬼会や万灯会が、いつまでも皆様の「想い」を継承していける場であり続けますようこれからも精進してまいります。



寺遊びinよけいじのご報告

夏休みに入った子どもたちにお寺で遊び、お寺で楽しみ、お寺を身近に感じてもらうと例年開催をしている「寺遊びinよけいじ」が行われました。

新型コロナウイルス感染予防や熱中症予防をしっかりと行いコロナ禍の中、なかなか外出のできない子どもたちにも少しでも楽しんでもらい、一夏の思い出になればとの思いで山内住職、婦人方一丸となって務めさせていただきました。



当日は仏様の仏絵に色を塗る写仏や広い境内を巡る下駄とばし大会、瀬戸内市出身のチェロ奏者岡本渚様による演奏会等を行いました。



餘慶寺 寺宝展

十月九日(月・祝)九時三十分〜十六時

会場 本堂・薬師堂・餘慶寺会館

今年で第二十一回となり

ました餘慶寺寺宝展が右記日時に開催されます。今回も餘慶寺に祀られている様々な仏像や寺宝を展示致します。

そのほか、カフェやマルシェ出店など、様々なイベントをご用意して皆様のお参りをお待ちしていますので、お誘い合わせの上、ぜひ上寺へおいでください。なお、詳細につきましては別紙チラシをご覧ください。

薬師護摩祈禱

護摩木三百円

木札授与三千元／五千元